

国鉄動力車労働組合

千葉地方本部

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二五八〇九(公衆)四三三二七二〇七

本部城石組織部長千葉地本破壊と宣言 「千葉地本再建のため 団結カンパロー」

第2回全国組織部長会議は東西2ブロックに分けられ、東ブロック組織部長会議は一月二四、二五両日盛岡において開催された。

会議は例によつて、「内部で動労型労働運動を否定する千葉地本」「水本、三里塚をはじめことごとく指令指示・機関決定を無視する千葉地本」などと攻撃する一方、全国大会の暴力問題や、この間の関東青年部発第11号をけじめとする規約規則無視、機関運営ルールを無視した自からの誤った組織指導については、何一つまともに答えようとせず、最後に城石組織部長は自から音頭をとつて「千葉地本の再建のために団結がんばろう」を三唱して終了した。この組織部長会議の性格はこの言葉にはつきりと象徴されている。「千葉地本は敵対矛盾」「組織を内部から破壊するもの」というレッテル張りから、本部の組織部長が自から公式の場で千葉地本の破壊を公然と宣言する所今まで事態は進展してきている。この新たな段階に立ち至つた理不尽な組織破壊攻撃を粉碎するため全ゆる力を結集し総決起しなければならぬ。

この組織部長会議における特徴的本部発言は次の通りである。

「暴力はなかった」 城石組織部長
△岡山地本に対する調査では全国大会の暴力事件はなかった。退場する一団の者がかけ抜けただけ。事件があつたかのような印象を与える一〇一定中の内容は一部修正しなければならぬ。会場内で多少コソクなどあつた様だが、あれを暴力と云えるか。エキサイトすれば仕方ない。

「青年部と革マル派は 何をやつてもよいのか！」

△執行権のない青年部が執行権のない千青の執行権を停止したとしても規約上問題は無い。しかしこの際一時留保させる。(規約上問題がなければ留保させる必要もないだろう。)
△「本部革マル派」のレッテル張りには、動労を破壊しようとする権力に千葉が手を借すもの。
△革マルが職場に入つてビラマキをやつたこと

「秋田地本の指極 については問題があれば卒直に「運動の前進にならない」と革マル派に抗議すべきだ。(冗談ではない。」「悪質労働研幹部を追放せよ」という革マルのビラは「運動の前進にならない」どころか、明確に動労に対する組織破壊攻撃、動労に対する敵対ではないのか。本部はなぜそのことを目をつむろうとするのか。青年部と革マル派は何をやつても容認するののか。」

「千葉が何を言つてもオルグに入る」「オルグについては千葉地本がいろいろ云つても、今や動労5万と一体化をはかるために入らなければならない段階に来ている。」

千葉 解決へ交流、オルグ

千葉地青三役の 指導権限を停止

新聞 新 聞 重 力

毎週水曜日発行 定価1部5円・1ヵ月20円

第21回全国青年部長会議総

総に支援の通全

の発言が相次ぎ、中央青年部長が次のように中央常任委員会としての考え方を提起し、全体で確認された。

①千葉地青三役3人の三役としての役割は認めない。宮内閣東常任委員の資格も認めない。

②千葉地青の他の常任委員については、本部・関東青年部との交流・オルグを行う。

③千葉地青に対して全国オルグを実施する。

時期は年明けになるが中央常任委員会に一任する。